

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：川口市立安行小学校子どもエコクラブ

27A-24

代表者：代表 菊次 哲也

URL : <https://angyo-e.sakura.ne.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

安行小子どもエコクラブでは安行小校内の学年園をお借りして、田んぼ、畑づくりをしてきました。そこでは県の絶滅危惧種のアカガエルを育て、メダカ、ホタル飼育なども行ってきました。しかし、児童数の増大に伴いプレハブ校舎が建設されることとなり、学年園はすべて撤去されてしまいました。そこで学校外の休耕田を借りて「田んぼビオトープ」づくりを進めました。安行に残る田んぼは1か所だけです。その横の休耕田を10数年ぶりに学校ファーム「田んぼビオトープ」として復活させ、今年で2年目となりました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・ 5月19日 田んぼ草刈り 19名 ・ 6月4日 田植え1回目 15名
- ・ 6月9日 田植え2回目 21名 ・ 9月16日 稲架掛け台づくり 12名
- ・ 9月22日 稲刈り1回目 22名 ・ 9月29日 稲刈り2回目 22名
- ・ 10月14日 脱穀・精米体験 33名 ・ 10月27日 脱穀・精米体験2回目 23名
- ・ 12月29日 収穫した稲藁を使って「しめ縄づくりとおもちつき」 88名
- ・ 1月25日 安行小まつりで田んぼのお米炊飯試食 約500名参加

3. 活動の成果

田んぼビオトープづくりにあたって地主さんはもちろん、地域の農協、町会、学校、おやじの会など様々な方々に協力をいただきながら進めることができました。田んぼは日本型ビオトープと言われるように多様な生き物が生息していますが、田んぼの除草では農薬を使わずに稲を育てました。そのために今年もアイガモロボットを導入して使ってみました。

収穫2年目ですが4俵（1俵60kg）を超えて250kgほどのお米を収穫できました。泥だらけの田植え、夏の生き物調査、秋の稲刈り、収穫と、年間を通して田んぼづくりに参加できました。脱穀、精米体験もして、米作りの大変さ、大切さを経験できたことが何よりの成果です。

12月には、自分たちが育てた稲わらでしめ縄を作ることができました。今年は稲わらを細かくして田んぼにもどしての土づくりもしました。

4. 今後に残された課題

稲刈りを終えた後、トラクターを入れて秋の耕耘を行い、レンゲソウの種を蒔き、春には一面レンゲの花が満開になることを目指していましたが、収穫した稲藁を田んぼにもどすのに時間がかかり、レンゲソウの種を蒔くのは今後の課題にしました。

今年も収穫した稲わらでしめ縄を作ることができました。地域の伝統行事「安行原の蛇造り」でも、この田んぼで育てた稲わらを使ってもらうことができました。

田んぼの周りの草地はガマを残しながら遊歩道となるよう草刈りをしています。池も大きくして水を入れてたくさんの生き物が棲めるビオトープ作りをさらに進めていきます。

